

令和6年度 江戸川区立小岩第五中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健やかな人</li> <li>・知性に富む人</li> <li>・心豊かな人</li> <li>・勤労を尊ぶ人</li> </ul>	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力を身につけ、豊かな人間性や社会性を育み、個性や特性をお互いに認め合うとともに生き生きと活動でき、規律と活力のある安全・安心な学校</li> <li>・多様で変化に富んだ時代に希望をもって主体的・意欲的に生き、将来を切り拓くことができる生徒</li> <li>・向上心と自立心の旺盛な生徒・あきらめずに粘り強く主体的に取り組む生徒・他に対して思いやりをもてる生徒・心身ともに健康な生徒～</li> <li>・最大の努力を惜しまず、使命感と自己研鑽に励み、学びに向かう力を育て、人権に配慮した言動と指導ができ、責任ある職務の遂行ができる教師</li> </ul>
前年度までの本校の現状	成果 江戸川区教育課題実践推進校として、研究主題を「豊かな心と健やかな体の育成を土台とした学力の向上」と掲げ、学力向上を課題とし、生活・学習・運動リズムの構築に取り組んだ。生活習慣の見直し、基礎学力定着への学習態度の見直し、岩五ギネス（短縄検定）などを通して運動に積極的にかかわる姿勢など生徒の意識に向上が見られた。	課題 素直でやさしく元気な生徒が多いが、学習面で継続して積極的に取り組むことに課題がある。3年生になると進路に向けての取組を始める生徒が増えてくることを踏まえ、もっと早い段階で意識できるようにしていきたい。そのために、研究発表実践の年である本年は岩五リズム（学習リズム・生活リズム・運動リズム）を通して“リズム”の大切さ考え少しづつ生徒が意欲的に考え行動できるように取り組む。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○学力の向上 ・基礎・基本の確実な習得 ・家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実 ・授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上週間及びbuild-up timeの実施</li> <li>・放課後補習教室の実施</li> <li>・各種コンテスト実施</li> <li>・一人一台端末の活用の工夫</li> <li>・長期休業明け確認テストの実施</li> <li>・考え方ツールや話の聞き方あいうえおの掲示、推進</li> <li>・学習リズムの確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5教科都平均以上</li> <li>・各種コンテストの合格率80%以上</li> </ul>	C	B	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都平均を目指したが全国平均程度にとどまった。しかし各種コンテスト等の取組に対して昨年度より向上の兆しが見えた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種コンテスト等を行い目標合格点に向けて学習リズムを作っていく学力の向上につながっていった欲しい</li> </ul>	B	今年度より英検、漢検に加え数検を実施した。さらには、校内検定として全校生徒が同一のテストをする「数学発想法テスト」も行った。結果を聞いた生徒たちの反応から、次回への意欲が感じられた。また、補習教室も声掛けにより継続して通う生徒が増えたので、今後も生徒が自発的に学習に向かいたくなる取組を学校として行っていきたい。	B	授業にまじめに取り組んでいる様子が見え始める。学校参観の際には多くの授業でICTを利用して、先生方の工夫が感じられた。さらなる学力の向上に期待します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の授業に取り組む姿勢が「当たり前」にチャーム着席してスタートし、学習に望める姿勢が作れるよう学校体勢で改善面を対応していく。</li> <li>・質問教室を試験前などの教科でも質問できる時間を設定する。</li> <li>・コンテストの充実</li> </ul>
	○読書科の更なる充実 ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休みの図書室開室</li> <li>・学校司書と委員会との連携による企画の実施</li> <li>・学校司書と連携した授業の実施</li> <li>・朝読書の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間貸出平均3冊以上</li> <li>・昼休み開室100%</li> <li>・学校司書と連携し年に1回以上全クラスオリエンテーションやブックトークを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の開室はほぼできたが使用状況により100%には至らなかった。学校司書との連携は昨年度より大幅に増え、専門委員会などで支援ももらっている。図書館授業も国語科で実施できた。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員室前の図書のコーナーはとも興味をひくものだと思います。内容も定期的に変わっていて飽きがないと思います。ここから図書室の開室の利用に繋がっていくと良いと思います。</li> </ul>	B	今年度、司書の方が毎週来ていただくことになり、図書関係の授業や委員会のコラボ、職員室前図書コーナーの展示など様々な面でパワーアップできた。さらに連携を深め、子供たちのためになる支援を実施したい。	A	職員室前のコーナーはいつ行っても楽しく工夫が凝らされていて、しばらくそこで過ごしてまいります。また、図書室のポップも素敵なものが増えていました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書支援員との連携をもとに、令和7年度より開始される貸出機能の周知とともに図書室に通いやすい雰囲気を作る。</li> </ul>	
体力の向上	○運動意欲や体力の増進 ・運動意欲や基礎体力の向上に向けた取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業内での補助運動の実施</li> <li>②R-1グランプリや岩五ギネス等レクリエーション要素を交えた運動意欲の推進</li> <li>・運動リズムの運動習慣確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①体力テスト都平均以上</li> <li>②学期に一度80%以上の生徒が参加</li> </ul>	B	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>①縄跳びを主として様々な補助運動を行った。継続的に体力向上につなげていく。</li> <li>②一学期はレク実施ができなかったため二学期以降に計画していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縄跳びを主にした運動で、基礎体力の向上につなげていけると良いと思います。</li> </ul>	B	授業の始めに短縄跳びを取り入れることで基礎体力の向上につながった。昨年度行った岩五ギネスやR-1グランプリは実施できなかったが、体力テストの縦の連携などでよくとしては高まる場面が作れた。運動会の縦割りなどはクラス数が上手に分けられる場面ではか実施が難しい。年度ごとにクラス数が安定しないのが残念である。	B	運動会以外の取組は見ることが少ないですが、スポーツテストの異学年交流では、先輩たちが率先してリーダーシップを発揮していたとお聞きしております。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業始めの縄跳びは継続して行い、体力作りに楽しんで取り組めることを体育科と相談し充実させていく。</li> </ul>
	○他学年との交流による意識・意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校遠足（スポーツチャレンジ）において、スポーツテストやウォーキングを学年の枠を超えて実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回年度当初に実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年交流として新体カテストとウォーキングを合わせて実施することができた。運動会でも学年・学級で連帯感をもち運動意欲を引き上げることができた。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会では、学年・学級で一体感を感じられました。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や行事で通常級の生徒と一緒に交流できることは、両学級にとってとても良いことだと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツチャレンジを設定し、改善点を確認し定着させていく。</li> </ul>			
実現に向けた共生社会の推進	・特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常級と特別支援学級との共同学習5教科以上</li> <li>・すべての行事における交流</li> </ul>	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国数英の3教科において通常級と特別支援学級で合同の授業が展開できた。運動会では学年種目や全員リレー、係活動も共同で行った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や行事で通常級の生徒と一緒に交流できることは、両学級にとってとても良いことだと思います。</li> </ul>	B	年度当初にユニバーサルデザインについての研修を行うなどして、実際に教室で生かせることを共有するなど、校内で意識が高まる場面が作れた。特支学級の取組も通常級にとってよい機会となった。	A	学年ごとの廊下の掲示などを見てみると、先生方が生徒にわかりやすく様々なことを伝えていく様子が見えます。6組との交流も多いと思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度はUDや特別支援の研修を取り入れようとしていた。同様に7年度も継続して行っていく。</li> </ul>
	・巡回指導や特別支援教室専門員、SC専門員、SSWとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援委員会（不登校担当、コーディネーター、SC専門員、SSWと各学年）を隔週で実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内特別支援委員会月2回実施（委員会がない週は教員を除く職員で情報交換）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援委員会は隔週で行い、委員会がない週は教員以外の専門員等で情報共有、支援策の相談などを重ねている。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各専門の指導員が充実していると思う。</li> </ul>	A	特別支援委員会は予定通り行うことができた。また、昨年度よりSCやSSWが積極的に生徒との関わり等を報告してくれたため、情報共有が密になった。	A	特別な支援が必要な生徒はどこにでもいると思います。先生方が個々に対応してくださっていることがわかります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援委員会は隔週で確実に実施できた。SSWも令和5年度途中より配属されたが、徐々に本校にいてくださることで連携が深まったので継続していく。</li> </ul>	
	・標準服や校則の見直し、検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダーレスを意識した標準服の検討や校則等の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時、改善案（教員間での気づき、地域・保護者からの意見・要望）を検討している。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなか理解を得るのは難しいことだと思います。</li> </ul>	B	学校評議員会等でジェンダーの観点から制服検討についてお伝えしている。時間をかけて取り組んでいく。	B	評議員会の中で制服検討のお話をいただきました。今後に向けて必要だと感じました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を集約しながら70周年に向けて検討を進めていく。</li> </ul>	
不登校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンカレッジルーム（不登校別室指導）の利用方法などの円滑な実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校別室指導支援員と特別支援教室専門員と連携し、別室登校をスムーズにし不登校生徒数の減少を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校発生率5%以下</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校別室指導支援員と特別支援教室専門員と連携し、別室登校をスムーズにし不登校生徒数の減少を目指す</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりと向き合い子どもの事をよく考えてくれていると感じます。</li> </ul>	B	不登校別室指導の担当とコーディネーターを中心に、教室には入れなくてもどこかで居場所が作れるよう検討し取り組んでいます。	A	一人ひとりに向き合って指導してくださっていることが伝わってきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員と生徒が信頼感をもって携わっていきけるように随時改善していく。</li> </ul>

心校の・充い実じめ	• 教育相談の強化	• いじめアンケート等をもとにした個別相談、教育相談（三者面談）前の個別面談の実施	• いじめ発生件数ゼロ	B	B	B	• いじめアンケートや学期始アンケート、ヤングケアラーアンケートなどを実施し、個別相談や聞き取りなどを実施した。	B	• 個別相談、教育相談を行って生徒や保護者から意見を聞いてくれている。	B	長期休業明けやふれあい月間などのアンケートを通じそれをもとに個別面談を行うなど確実に取り組めた。	B	三者面談以外のもいろいろアンケートや面談を行っていることをお聞きしました。ありがとうございます。	• アンケート実施時だけではなく悩みなどがあるときにはすぐに相談に乗る体制が組めるよう整えていく。
	• 生徒の様子が読み取れる資料の活用	• hypear—QUの実施とその活用、SBSの活用	• 児相への連絡生徒1人に対して月1回以上	B	B	B	• 長期休業以外は児相との連絡は取った。SBSの活用も以前より強化している。また、QUに関する研修会も今後行う予定。	B	• 不登校の生徒とは訪問などで連絡をとっている。関係諸機関とも連携している。	B	関係機関との連絡は生活指導主任・担任・管理職を通して確実に行うよう意識した。	B	不登校の生徒は多いそうですね。別室指導員など対応して下さることを願っています。ありがとうございます。	• 他機関との連携を深めだれ一人取り残さない支援ができるよう努める。
学校（園）の現実	• 学校HPの充実	• 定期的なホームページの更新	• 1日のアクセス件数目標300件	B	B	B	• 給食よりは毎日作成、更新し生徒の様子も5月以降週2回以上あげられるようになった。	A	• 学校行事、給食などの写真やその説明があり、とても見のが楽しみです。	B	年度途中より積極的に行事のHPを行ったが、後半は滞った。給食は毎日あげることができた。各学年の担当を決めるなど工夫して充実させていく。	A	学校行事、学校での様子などがわかりやすく毎回見るのが楽しみです。	• 学年担当を決め、学年行事などもHPにあげられるよう体制を整える。
	• 学校公開の充実	• 学校公開でのアンケートの実施と改善	• 全学校公開にてアンケートを実施とそれをもとにした改善策の検討	B	B	B	• 学校公開でいただいたアンケートに関しては管理職が目を通した後全教職員で目を通し、提案いただいた改善策等は必ず検討している。	B	• 学校公開でのアンケートをもとに改善策の検討をしてきている。	B	学校公開は道徳授業地区公開、新入生保護者説明会などとかぶせることでよい機会となった。来年度作品展も見えていただく方向で検討。	A	学校公開でのアンケートをもとに改善策に取り組んで来ています。	• アンケートをもとに改善策を検討する等、今年度同様意見集約が多くできるように検討していく。
	• 学校関係者評価の充実	• 評価項目の見直しと課題改善策の話合いの充実	• すべての項目において肯定的回答80%以上	B	B	B	• 学校評議員会については全員が参加できるような時間を設定することが難しく、今後検討が必要。	B	なかなか学校評議員会に全員出席は難しいようです。	B	今年度末の学校評議員会はほとんどの方に出席いただいた。返信用封筒などの活用や、評議員の入替なども関係あるかと思うが、今後もご意見をいただけるよう工夫していく。	B	前後の学校評議員会はほぼ全員が出席でき、アンケートの回答率もよかったです。今後も学校に協力できる体制をとっていけるとよいと思います。	• 年度末の学校評議員会は多くのご参加が得られた。新年度は入れ替わりもあるのをごちからも充実させたい。
教育の展開	• 食育の推進	• 食育講演会の実施 • テーマによる献立 • 生活リズムとの連携	• 食育講話1回 • テーマ献立30回	B	B	B	• 講演会は今後どのような形で実践していくか内容も含め検討中。 • テーマ献立は9月末時点で30回実施で達成済。	B	• 給食室の前に写真や説明がされていてとても楽しめると思います。	B	給食では様々な国の料理や行事にあったものなど工夫があり、放送委員会が昼の放送で紹介してくれるのが食育につながっている。	A	いろいろと（多国料理など）工夫されていて給食が楽しみな生徒がたくさんいます。	• 「宇宙—おいしい給食」の名に恥じない給食を今後も継続していく。
	• キャリア教育の充実	• キャリアパスポートの充実 • 高校相談会の実施	• 進路説明会年2回	A	A	A	• 進路説明会は前期に一度、10月に2回目を予定している。 • キャリアパスポートは各学年共通の様式でできる形で作成を進めている。	A	• 高校フェスタではたくさんの保護者や地域の方が参加していました。	A	高校相談会はコロナ禍以降縮小されていたが、ほぼ以前の状態に戻り、他校のPTAの協力もあり盛大に実施された。また、キャリアパスポートも進路指導主任が責任をしっかりと提案をするなど改善されている。	A	高校フェスタ、チャレンジ・ザ・ドリームなど充実して行っていました。	• 進路指導主任を中心に各課題が精練されてきているので次年度も継承していく。
	• 学校における働き方改革の推進	• 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	• 時間外勤務時間月60時間以内 • 職員会月1回	B	B	B	• 年度当初の呼びかけで意識付けはできたが、行事前など遅くまで残っている教員が多数いる。職員会は運営委員会の発足により時間は短縮できている。	B	• いつも遅くまで対応していただいてとても感謝しています。	B	年度末は授業時数を確認しつつ学年末処理の時間を確保するなどできた。新年度は年間を通してできるようにしていく。	B	遅い時間まで対応していただいていた大変感謝していますが…働き方改革の点では、課題に感じます。	• 本校の一番の課題であると感じている。職員会の設定時間など工夫・改善を確実にしていく。